

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 邦文



■ 春らんまん

今年は、寒い日が続いた冬から、一足飛びに温暖な気候となり、梅、桃、桜と早いテンポで季節が移り変わったような印象を受けています。みなさんは、どうお感じになりましたか。

3月末から4月初旬にかけては、別れと出会いが輻湊する季節でもありました。何度も胸に熱いものが込み上げた1週間でした。全く違った場所で、きっと同感の方もいらっしまったことでしょう。いつもこの季節は、長い人生の縮図のような一時期だと、自分に言い聞かせています。

東北の被災地（宮城県山元町）の復興を支援するため、ずっと本市から派遣している元建設部長（1級建築士）が久しぶりに帰ってきて、被災地の近況を聞かせてくれました。山元町の職員にもともと建築士がいないため、仮設住宅も、これから建てる町営住宅も、基本計画等から全て各地から派遣された応援団に期待されているとのこと。ところで、山元町には、復興を支援するため全国から応援職員が馳せ参じていますが、元建設部長の山元町での滞在が既に2年半を過ぎたのに、今後も復興支援のため滞在を続ける予定である旨を彼本人から聞いた他自治体の派遣職員の中に共感する人が出始め、派遣自治体が決めた半年の派遣期間後も残留を希望する人が出始めたそうです。

今年は、山陽オートの関係で、経済産業省車

両室（霞が関）に初めて職員を派遣しました。派遣は1年の予定でしたが、本省で面接を受けた結果、2年お願いできないかとの依頼が来しました。県にも数名、派遣を出します。

一方、国家公務員上級職3名が、初任者研修の一環として、近く本市にやってきます。受け入れ側のカリキュラムもひと工夫して、本市北部の中山間地域の極端に荒廃した農地の現状なども視察して帰ってほしいものです。

■ 民主主義

4月12日の県議会議員選挙の前に、この文章を書いています。

私の関心事はただ一つ。投票率です。その地域の民主主義の成熟度を測るうえで、投票率50%が一つの目安だと考えていますが、果たしてどうだったでしょうか。選挙は、一見単純なようでいて、利害関係や縁故関係を含む、非常に複雑な要素の絡み合いによって決まるのが現状のようです。「ふるさとに民主主義を拡げたい。」私が市長選への挑戦を決意したのは、この一事でしたが、10年を振り返り、自分の努力不足を嘆くことしきりです。

